



はたらく女性のフロアかながわ (WWFK)

〒221-0855 横浜市神奈川区三ツ沢西町8-25-203 本間重子気付

電話/FAX 045(323)0653 E-mail wwfk@hotmail.co.jp

HP <http://wwfk.jimdo.com/>

はたらく女性のフロアかながわ第15回総会から

総会議案はすべて承認される

第15回総会には、9人が参加しました。

第1部は総会をおこないました。総会議案は、2022年活動報告、会計報告、会計監査、2023年活動方針、予算、役員体制が提案されました。

参加者からは「会員からの会費の納入がきちんとされていないので、会計が心配になる。会員名簿を明らかにしてください」と、会の財政への意見が出されました。

参加者全員の賛成で議案はすべて承認されました。

閉会のあいさつは、伍さんから「最近、戦争へと先祖返りしている気がする。なんのために生きてきたのか、と思う。しかし、長生きも大事です。長生きは最高の抵抗。やれることをぼちぼちやっていこう」と。

お弁当を食べながら交流

コロナがら類になったことから、会議室で飲食も可能になりました。今回は、参加者それぞれお気に入りのお弁当を持ちより食べながら、「趣味のこと、思っていること、伝えたい事・・・なんでも話そう」ということで行いました。

本山さん＝姉が特養施設に入った。自分も転んで骨折し、介護度1に。機能訓練のリハビリをしている。

中嶋さん＝コロナにかかる人が増えている。6回ワクチン接種してもかかっている。検査キットも1500円と高い。

本間さん＝高齢者住宅の応募、10回落選すると優先入居になる。やっと入居できるが、書類を10枚位出させられる。「暴力団との関係の有無な



第15回総会のようす

ど」の書類もある。いまの住宅より狭いので、物の整理をしている。不要な物を千葉にある「かにた婦人の村」(注)に送ろうと思っている。

【2023年度役員体制】

代表 小島八重子

事務局 池田資子、伍淑子、
佐久間由美子(会計)、中嶋ひとみ、
本間重子、村田泰子

会計監査 白井光子

編集委員 池田、本間、小島

(注)「かにた婦人の村」は、日本基督教団の深津文雄牧師によって、1965年に創設された日本唯一の長期婦人保護施設で千葉の館山にある。全国からの寄付品(衣類、日用品、アクセサリ、靴、バックなど)をバザーで販売し、収益を運営費としている。

HP: <https://micono.link/>

現在、居住棟の立替のためのクラウドファンディングをしている。

おしゃべりの真中にスイと赤とんぼ
言わぬでも良いことを言い虫の声

松尾 佐知子

神奈川自治体学校・女性行政分科会

とき:2023年11月12日(日)13時30分~16時30分

ところ:横浜市健康福祉センター8階会議室

テーマ:「非正規公務員問題は、ジェンダー問題」一住民本位の仕事を求めて一

参加費:全体会と分科会参加は1000円 分科会のみ参加は700円

内容: ★お話「会計年度任用職員制度をジェンダー視点で考える」

講師:渡辺百合子さん(公務非正規女性全国ネットワーク(はむねっと)共同代表)

報告:図書館司書、神奈川県・横浜市で働く仲間から

福島県相馬市に 「おれたちの伝承館」オープン 佐久間由美子(会員)

福島原発事故から12年、「おれたちの伝承館」は7月12日、福島県南相馬市にオープンした手造りの美術館です。JR小高駅から徒歩5分。空き倉庫を作家や地域住民、全国からのボランティアの協力で改装、福島原発事故を伝える作品が展示されています。

入口壁面を覆うのは、富岡町夜ノ森の満開の桜のトンネルの写真。2階建て館内は吹き抜けて、見上げると巨大な天井画。藤沢市の日本画家山内若菜さんの作品「命煌めき」は7疔×5疔の大作で、一見に値します。原発事故で死んでいった馬や牛、海や魚などが絵の中に生き返って、未来へ続く希望の光の中にあふれています。

伝承館の始まりは「もやい展」。伝承館館長で写真家の中筋純さんは、福島原発事故の伝承をアートでと、2017年から「もやい展」を東京、神奈川、石川などで4回開催してきました。地元



でも開催したい、常設の施設をと場所を探していると、小高駅前の双葉屋旅館の縁で知り合った人を中心に計画が進み、開館が実現しました。

展示作品は、写真、絵画のほか、彫刻、イラストレーション、インスタレーション、CG、布絵、漫画など様々、21人の作家が参

加しています。

小高には13,000人住んでいましたが、まだ3,800人しか戻っていません。中筋さんたちは「福島原発事故がもたらした教訓を我が事として見つめ直し、自らのまことの表現で後世に語り紡いでいけるきっかけの場」として、民による伝承館として、南相馬小高の地に根を下ろしています。

長岡だより(近況)

鈴木 敏子(会員)

定年後は、ほぼ月1で数日位帰省していた長岡でしたが、日本でもコロナウイルスが拡大してきた2020年4月から長岡暮らしとなり、コロナ禍が鎮静してきた昨年11月によやく横浜を引き払うことができました。とはいえ、メールはもとより、LINEやfacebook、オンラインなどの普及が、地理的距離を縮めています。そう思うのは私の勝手に、研究会等の事務局をやってくさっている関東の方々にはお世話おかけしています。WWFKの会員であったことは、神奈川、横浜とつながっていてありがたうれしいことです。

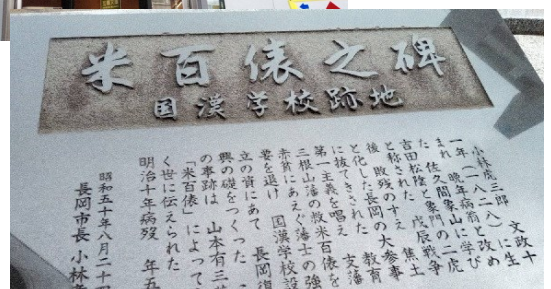
さて、長岡市では、毎年11月初旬に開催される「男女平等推進センター『ウィルながおか』」のフォーラムを企画する時期になりました。今年は第39回で、私が所属する団体の一つ、「新潟県中越大地震『女たちの震災復興』を推進する会」では、11月5日(日)午後、「『花火』に託す平和への願い」と題したセッションを設定、昭和女子大学名誉教授・天野寛子さんの講演「『爆と曝』想いをひと針に込めて」と、長岡在住の朗読家・加藤博久さんの朗読を行います。同時に3日(金・祝)～8日(水)、「天野寛子フリー刺繍画展一爆と曝—in NAGAOKA」を開催します。広島の原因や福島の原因のフリー刺繍画に加えて、1945年8

月1日深夜の長岡空襲の罹災状況や、長岡花火もフリー刺繍で描いてくださいました。天野さんのフリー刺繍画展と講演は、2016年に開催した東日本大震災のプロジェクトに次ぐもので、楽しみにしています。

長岡の最近のトピックの一つは、私の住まい斜め向かい、明治期の長岡復興の礎になった「国漢学校」跡地に建設された新築ビルに、7月22日、「米百俵プレイス ミライエ」がオープン。市立図書館の一つ「互尊文庫」が移転し、自由な、ユニークな空間になっています。開館1カ月で来館者は5万人とも。機会をつくって見学においでくださると嬉しいです。



←米百俵
プレイス
ミライエ



君嶋ちか子がゆく²⁶ …奮闘記

神奈川県18区で奮闘します！

私はこれまで、神奈川県議会議員を2期8年間勤めてきましたが、今は、衆議院選挙神奈川県18区予定候補者として活動しています。

区割りが変わり、新神奈川県18区は、川崎市高津区と中原区からなります。

18区の要請待ってました

私は、そもそもあまり要請を断らないタイプ(?)ですが、18区の要請にはとりわけ敏感に反応しました。

というのも18区といえば、あの統一協会と密接な関係を持った山際大志郎氏を選出している地域です。

山際氏は、統一協会についての自民党の調査には「申告」せず、その後外部からの指摘で、癒着ぶりが次々と明るみに出た人、全ての場面で何一つ自らの言葉では語らなかった人です。今年の統一協会めぐりニュースで度々テレビに登場しました。

統一協会のありようがそもそも問題ですし、政治家との癒着も政治を歪める大問題ですが、さらに私は、事実を隠し自らの行動に責任を持たない山際氏の姿勢は政治家失格だと思っています。

農事日誌から

トマトのこと

小島八重子(会員)

子どもの大好きなミニトマト。私の子どもの頃のトマトは、青臭という記憶しか残っていない。

いまでは、様々な品種が開発されている。真っ赤なトマトではなく、黄色、紫、緑色のトマトまで開発されているし、味も甘味を重視した品種になってきている。私は、甘すぎるトマトより少し酸味のあるトマトが好きだ。路地栽培した大玉トマトの甘みと酸味の絶妙なバランスはたまらない。知り合いにミニトマトを持っていくと、「味が濃い」「甘い」といわれる。つつい調子にのってしまう。

種は在来種を多く扱っている野口種苗から購入する。今年も、同じ伝統種の大玉とミニの種を購入した。3月に種を蒔き、温室で育てる。しかし、今年はずっとの年と違って、気候が不順なためか、なかなか苗が育たない。いつもなら5月の連休のころに畑に定植できるのに、5月半ばを過ぎてやっと定植ができた。その後はぐんぐんと成長し、6月上旬ごろには食べられるようになっ



それでも自民党は、山際氏を党公認としました。本人も自民党もよくよく有権者を馬鹿にしていると思います。

こんな人を当選させる訳にはいかないとすぐさま思った次第。

国会は儀式の場ではない

私は、比例とともに小選挙区でも共産党の議席を増やさなければ、と切実に思っています。

第211通常国会を思い出してください！史上最悪でした。立法事実が崩れても、全国から反対の声があがっても、質問にまともな答弁ができなくても、リアルタイムで法案に関わる事故やトラブルが噴出して、それらを只々聞き流し、問題多き重要法案をすべて強行成立させてしまいました。

国会は儀式の場と化しているように、私には思えました。自・公の政権はもとより、維新・国民民主が形骸化させているこのありさまを変えなければ日本の未来は描けません。

変えるためには、問題の本質と実態を明らかにしつつ国民の声を政治に反映させる共産党の議席が増えることが必須です。

これらの切実な事情で、私は迷うことなく立候補要請を引き受けました。

た。が、連日30度を超す猛暑の中、線香花火のように6月末には収穫は終わった。

トマトはお水が嫌いなので、暑さには強いかと思っていたが。トマトの原産地といえば、南米アンデス山脈の西斜面沿いの高原地帯(ペルー)と言われていることから、「やっぱり、暑さには弱い」のかと、あらためて実感。少々の日照りなら耐えられるが、今年の猛暑には、トマトさえ悲鳴を上げた。つまり、日焼けだ。

本当に、今年は猛烈な暑さだった。人間は、日陰や冷房のある所に逃げることはできるが、移動できない植物たちは、ギラギラと照り付ける太陽にじっと我慢するしかなかった。お水の大好きな里芋も、毎日お水をあげたが、葉は茶色になるし、ナスやピーマンは成長が鈍化するし…。異例づくめだった。

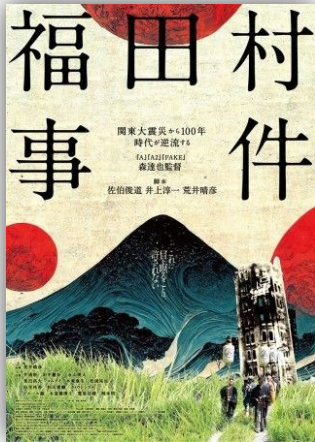
畑に出れば日射病の危険があるので、畑にすら出られない。本当に今年の気候は異常だ。9月に入り、気温は高いが日がだんだんと短くなってきたので、これからやっと冬野菜の準備に入ることができる。来年の作付を考え直さない。



映画が好き

「福田村事件」

池田 資子(会員)



100年前の関東大震災時に起こった朝鮮人虐殺をめぐって、松野官房長官は「事実を把握出来る記録が政府内にはない」と発言した。

「福田村事件」は一般的には知られていない惨劇を実話に基づいて映画化している。朝鮮で教師をしていた男性が妻と共に故郷に帰ってくる場面から始まる。

その場に居合わせるのは、戦死した夫の遺骨を抱く女性。故郷の駅には、彼の幼なじみの村長と軍人会長。戦死した英雄を迎える両親と村人や報道取材の新聞記者。一方、薬の行商をする四国の被差別部落の一団が関東に向かっていて、様々な人が千葉県福田村（現野田市）で交錯する。

映画の内容は知っているつもりだった。歴史背

景についても多少の知識はあったと思う。しかし、見終わった時、私はしばらく席を立てなかった。事件の残虐性は勿論だが、生き残った者たちや虐殺に関わった自警団、村人の気持ちを思ったからだ。

1923年9月1日、関東大震災は起こった。10万人以上の死者・行方不明者が出て、東京の下町は壊滅状態となった。震災後に広まった流言蜚語によって6000人を超える朝鮮人が虐殺されたと言われている。「井戸に毒を入れた」「火を付けた」「爆弾を持っている」などの根拠のない話が流れ、人びとは翻弄された。国からも通達があり「団結して警戒し、有事には方策を講じる」と。

四国から来た行商団は、讃岐弁のために朝鮮人と間違えられた。歴代天皇の名を言わせられ、「15円50銭」と言われた。同じ日本人なのに屈辱だったろう。追いつめられた彼らが唱える水平社宣言は圧巻。

何より恐ろしいのは群衆心理で、一発の銃声で人びとは暴徒と化す。次々に殺してゆく。

この映画の中には、現在の日本がある。戦争、差別、不安、恐怖、そしてデマや嘘に簡単に動かされる弱さ、マスコミの非力。

歴史に向き合い、未来への糧としたいと思う。

トピックス

▼横須賀市議会で「女性差別撤廃条約選択議定書早期批准を求める意見書」が全会一致で採択される▼

9月19日の横須賀市議会本会議で、表記意見書が全会一致で採択されました。

女性差別撤廃条約実現アクション神奈川のメンバーと地元横須賀のみなさんが協力し、横須賀市議会の全会派の議員さんと懇談し、早期批准の重要性を訴えました。自民党も4人の議員が話を聞いてくれました。よこすか未来（立憲系）の議員さんも5人の議員と懇談ができました。最初共産党が紹介議員にならない方がよいとのアドバイスもありましたが、最終的には、よこすか未来、共産党、無党派の方2人（うち維新系1人）の4人が紹介議員になりました。自民・公明は紹介議員になりませんでした。賛成し、全会一致で常任委員会をとり、9月19日の本会議で採択されました。

環境教育常任委員会では、地元の岩澤由美子さんが堂々と15分間の意見陳述を行いました。常任委員会の審議の内容もかなり水準の高いもので、私たちの意見が組み込まれたものになりました。

おりしも、横須賀市長の「女性蔑視」発言があり、女性たちが市庁舎前で抗議の声をあげたこと

もあり、市議会の中に、ジェンダー問題を前向きにとらえる姿勢があったのも、功を奏したのかも知れません。

一方、残念ながら横浜市議会で不採択に。川崎はまだ結果が出ていません。

▼「黒岩神奈川県知事の女性差別と人権侵害をなかったことにはできません。知事を辞任することを求めます」の署名3053人分を提出▼

7月29日から始まった表記署名（チェンジオーグと紙署名）の第1次分提出を9月20日に実施しました。チェンジオーグ（2870人）＋紙（183人）＝3053人です。

同時に、9月5日に提出した「公開質問状」（①人権侵害、性暴力への認識②自らの行為について県民への説明③辞任についての考え）の回答を聞く機会を持ちました。

対応した秘書室の関根グループリーダーは、「9月15日に秘書室長が公開質問状の書面と署名文を知事に見せた。知事の口頭での回答は、要請を認識した上で、『県民の皆さんの信頼を取り戻すべく、県政に全力を尽くす』である」との全く誠意のない回答でした。

今後は、もっと署名を積み上げ、辞任するまで続けることが重要です。